
6

車の手入れ

6か月点検	
点検項目	102
簡単な整備	
エンジンオイルの補給	110
冷却水の補給	111
ウォッシャー液の補給	112
ブレーキ液の補給	112
バッテリー液の補給	113
バッテリー端子部の清掃	113
クラッチ液の補給	114
タイヤの位置交換	114
エアクリナーエレメントの交換	115
ワイパーブレードラバーの交換	116
ソフトトップの手入れ	117
塗装の手入れ	118
内装の手入れ	120
アルミホイールの取り扱い	120
エアコンの手入れ	121
冬期の整備	122

6 か月点検

自家用乗用車は法令によって、6 か月、12か月、24か月の定期点検を行うことが義務づけられています。ホンダプリモ店で必ず点検を受けてください。

6 か月点検については、乗用車の構造と装置についての基礎的な技術知識を有する方であれば、ご自身で行うことができます。

ご自身で6 か月点検を行う場合は、次頁以降の点検方法に基づき作業してください。



- 点検結果は所定の用紙に記録する必要があります。点検結果の記録用紙(定期点検整備記録簿)は、別冊「整備手帳」に掲載されています。記録は2年間保存してください。

点検するときは安全に十分注意してください。



- 静止状態での点検は平坦な場所で、車輪に輪止めをしてから行ってください。
- フロントコンパートメント、エンジンルーム内の点検は、エンジンなどの高熱部に十分注意してください。やけどなど、思わぬけがをすることがあります。
- 換気の悪い車庫や屋内では、エンジンをかけたままにしないでください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に十分注意して行ってください。
- ジャッキアップして点検するときは、適切なジャッキを使ってください。(お車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時のみに使うものです。)

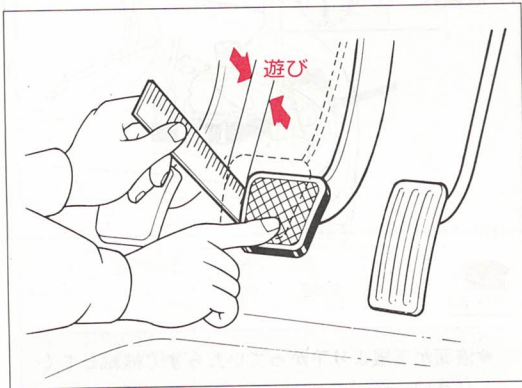
点検項目

ブレーキペダルの遊び、 踏み込んだときの床板とのすき間	103
ブレーキのきき具合	103
駐車ブレーキレバーの引きしろ	103
ブレーキホース、パイプの漏れ、 損傷、取り付け状態	104
リザーバータンクの液量	104
タイヤの空気圧	105
タイヤの亀裂、損傷	105
タイヤの溝の深さ、異状な摩耗	106
タイヤの金属片、石、その他の異物	106
クラッチペダルの遊び、 切れたときの床板とのすき間	107
バッテリーの液量	108
エンジンオイルの汚れ、量	108
冷却水の量	109
発電機ベルトのゆるみ、損傷	109
灯火装置、方向指示器の作用	109

ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間

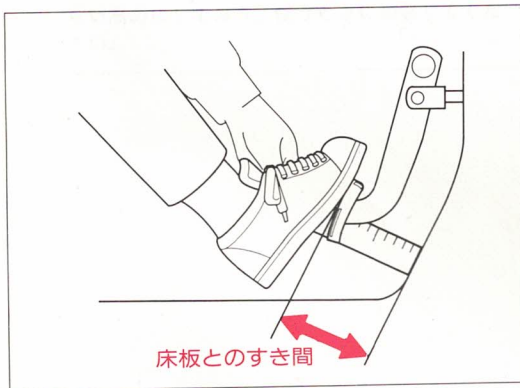
●遊び

エンジンを停止させた状態で、2～3回ブレーキペダルを踏み込んだのちに、ブレーキペダルを指で押し、抵抗を感じるまでの移動量(遊び)を定規などで点検します。
遊びは1～10mmが適正です。



●床板とのすき間

エンジンを始動し、2～3回ブレーキペダルを踏み込んだのち、ブレーキペダルを力強く(約20kgの力)5秒以上踏み続けて床板とのすき間を定規などで点検します。
床板とのすき間は113mm以上が適正です。



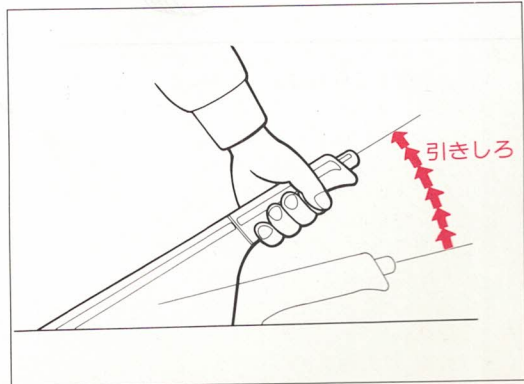
●踏み込んだときふわふわする感じがある場合、または踏み続けたときペダルがさらにはいり込む場合は、空気の混入や液漏れが考えられます。ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

ブレーキのきき具合

乾燥した路面で低速走行して、ブレーキテストを行い、きき具合が十分か、片ぎきがないかを点検します。

駐車ブレーキレバーの引きしろ

ブレーキレバーをいっぱいに戻した状態からゆっくり引き上げて(約20kgの力)、5～9回の引っかかり音でレバーがロックするかを点検します。

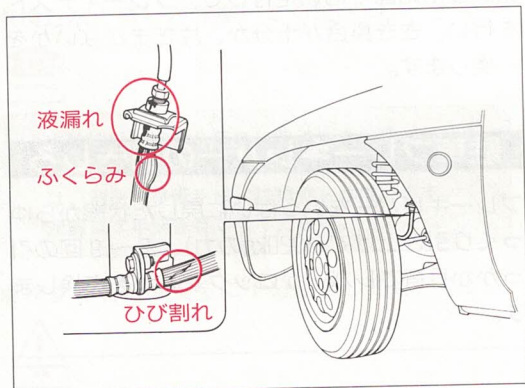


■ブレーキペダルの遊び、踏み込んだときの床板とのすき間 ■ブレーキのきき具合 ■駐車ブレーキレバーの引きしろ

ブレーキホース、パイプの漏れ、 損傷、取り付け状態

ハンドルを右にいっぱい切った状態で、左側フロントブレーキのブレーキホースに傷、ひび割れ、ふくらみなどがないかを目視、または手でさわって点検します。また、ホースが車体などと接触していないかやホースの接続部から液漏れがないかも点検します。

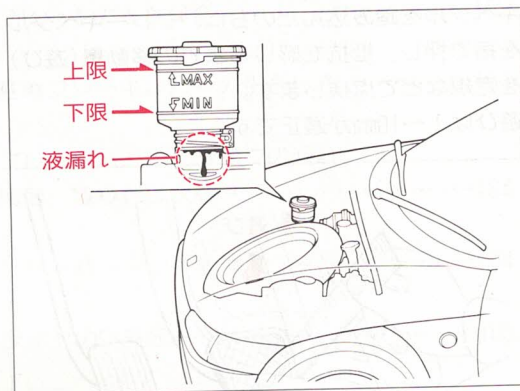
次に、ハンドルを左にいっぱいに切り、右側のフロントブレーキについても同様に点検します。



■ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取り付け状態 ■リザーバタンクの液量

リザーバタンクの液量

リザーバタンクの液量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるか、タンク周辺から液漏れがないかを目視や手でさわって点検します。



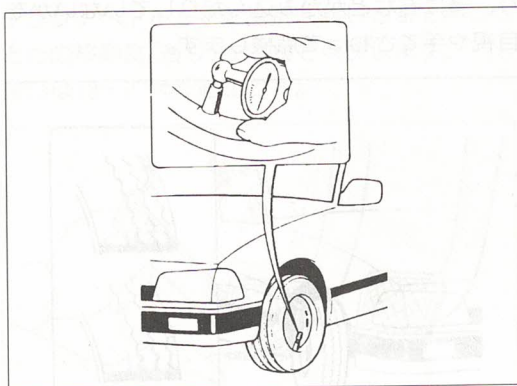
●液面が下限より下がっていたらすぐ補給してください。

ブレーキ液の補給 →112ページ

●万一、液の減りかたが著しいときは、ブレーキシステムの液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

タイヤの空気圧

走行前、タイヤが冷えているときにタイヤゲージで空気圧を点検します。



(空車時：単位kg/cm²)

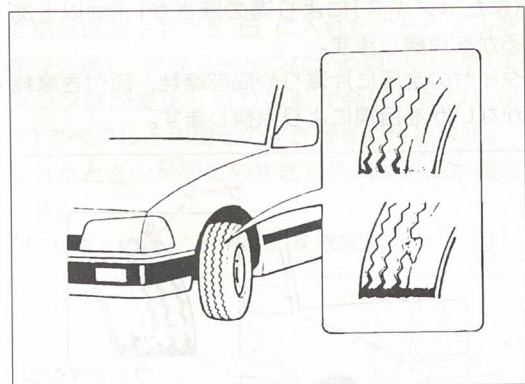
サイズ	空気圧	前輪		後輪	
		一般	高速	一般	高速
標準タイヤ	155/65 R13 73H	1.8		—	
	165/60 R14 74H	—		2.0	
応急用 スペアタイヤ	T115/70 D14	4.2		4.2	



- スペアタイヤの空気圧は基準値より0.2kg/cm²くらい高めにしておき、使うときに調整してください。

タイヤの亀裂、損傷

タイヤの接地面の全周と両側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。

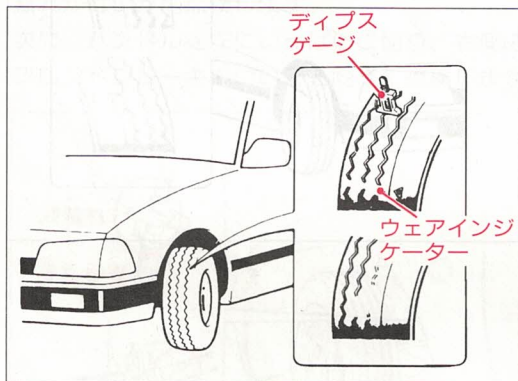


■ タイヤの空気圧 ■ タイヤの亀裂、損傷

タイヤの溝の深さ、異状な摩耗

タイヤの接地面に表示されているウェアインジケータ(摩耗限度表示)またはディプスゲージ(またはノギス)により溝の深さが1.6mm以上あるかを点検します。

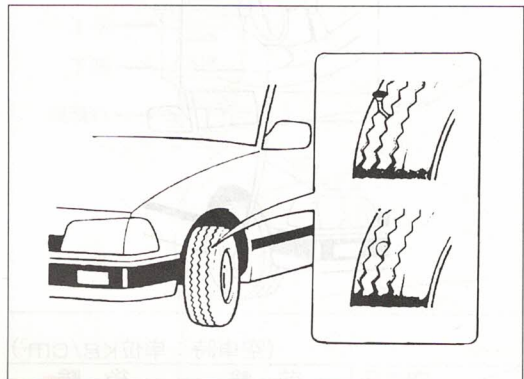
タイヤの全周に片減りや局部摩耗、段付き摩耗がないかを目視により点検します。



- ウェアインジケータは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

タイヤの金属片、石、その他の異物

タイヤの接地面と両側面に釘や異物がささったり、溝に石などがかみ込んだりしていないかを目視や手でさわって点検します。

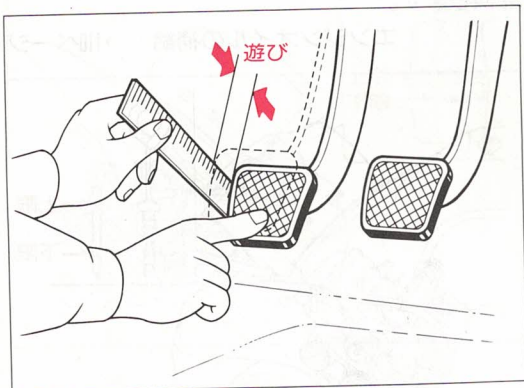


■タイヤの溝の深さ、異状な摩耗 ■タイヤの金属片、石、その他の異物

クラッチペダルの遊び、切れたときの床板とのすき間

●遊び

クラッチペダルを手で抵抗を感じるまで押しときの移動量(遊び)を定規で点検します。遊びは13~23mmが適正です。

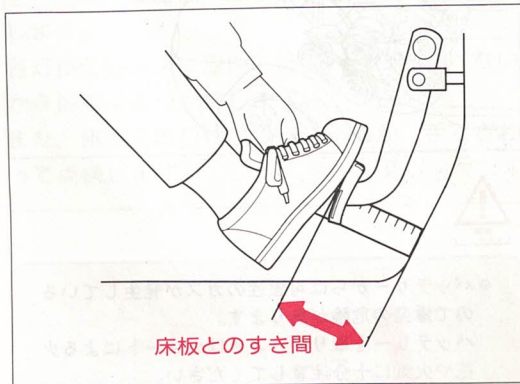


●切れたときの床板とのすき間

駐車ブレーキをいっばいに引き、エンジンを始動します。

アイドリング状態でクラッチペダルをいっばいに踏み込み、ギヤを 5 に入れたのちペダルを徐々に離し、クラッチがつながる直前の状態(エンジン音が変化したり振動が発生したりします)でペダルと床板とのすき間を点検します。切れたときの床板とのすき間は74mm以上が適正です。

(参考値・カーペットとのすき間は59mm以上)

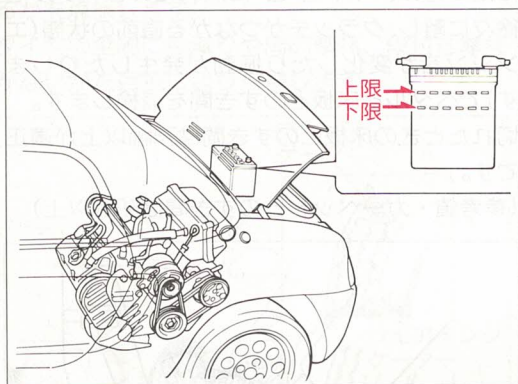


- 車が発進しないように必ず駐車ブレーキをかけてください。

バッテリーの液量

各槽の液面が上限と下限の間にあるかを目視により点検します。

バッテリー液の補給 →110ページ



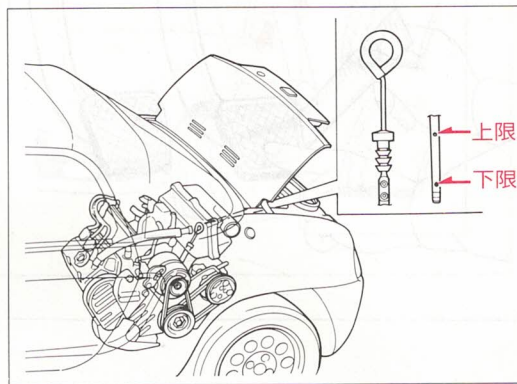
- バッテリーからは可燃性のガスが発生しているため爆発の危険があります。バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に十分注意してください。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診断を受けてください。

エンジンオイルの汚れ、量

エンジンを停止させ、油量計(オイルレベルゲージ)により、油量が目盛りの上限と下限の間にあるかを目視により点検します。

また、油量計に付着したオイルを手でさわるか、または布などに付着させ、オイルの汚れ具合も点検します。

エンジンオイルの補給 →110ページ

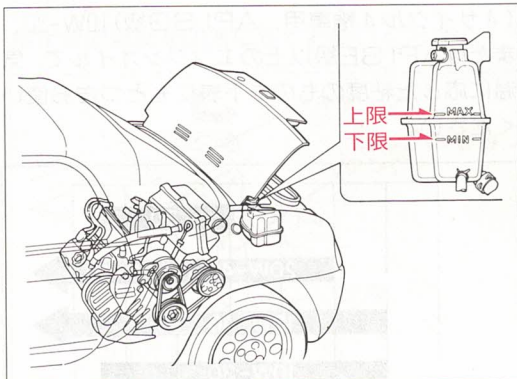


- 正確にオイル量を点検するために次のことをお守りください。
 - ・車を水平な場所に置いて行ってください。
 - ・エンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも3分以上たってから行ってください。

冷却水の量

エキスパンションタンク内の冷却水量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを目視により点検します。

冷却水の補給 →111ページ



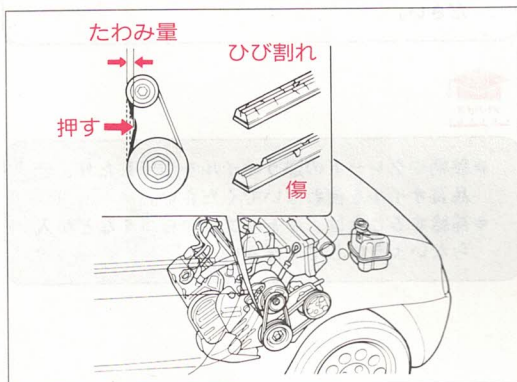
発電機ベルトのゆるみ、損傷

エンジンルームを開けます。

エンジンルームの開けかた →38ページ
発電機ベルトの中央部を強く押して(約10kgの力)、たわみ量を点検します。

このときベルトに傷やひび割れがないかも調べます。

ベルトのたわみ量は6.5～8mmが適正です。



灯火装置、方向指示器の作用

前照灯を点灯させ、明るさが不足していないか、照射方向が著しく狂っていないかを目視などにより点検します。

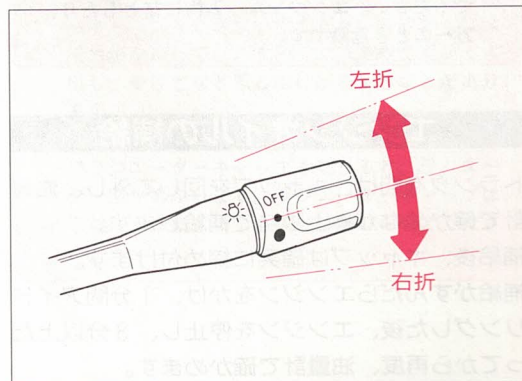
前照灯のレンズに破損、ひび割れがないかを目視により点検します。

また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。

車幅灯、尾灯、制動灯、後退灯(エンジンスイッチが"ON"の状態を確認)、番号灯などを作動させ、点灯、または点滅するかを目視により点検します。

各灯器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。

また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。



エンジンスイッチを"ON"にして、方向指示器を左右に作動させ、毎分60～120回の一定の周期で方向指示灯が点滅するかを点検します。

方向指示器のレンズに変色、破損、ひび割れがないかを目視により点検します。また、確実に取り付けられているか、手でさわって点検します。

簡単な整備

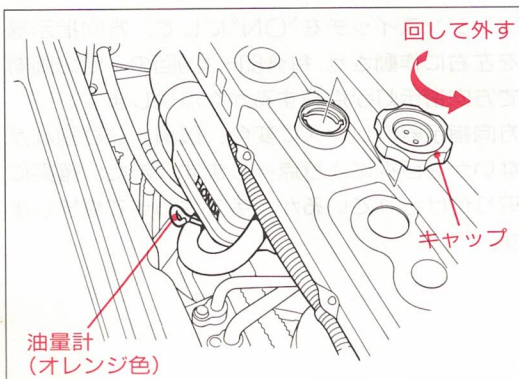
整備の際には次のことに注意してください。



- 安全な場所を選んで行ってください。
- 適切な工具を使ってください。
- エンジンは停止状態で行ってください。
- 駐車ブレーキを十分にかけ、輪止めをするなどして、車を動かないようにして行ってください。
- 自動車をジャッキアップするときには、適切なジャッキを使ってください。(車に備え付けのジャッキは、タイヤ交換時のみ使うものです。)
- フロントコンパートメント、エンジンルーム内の整備はエンジンなどの高熱部に十分注意してください。やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- 取り出した部品はエンジンルーム内に置かないでください。エンジンルーム内に落としたり、万一のとき危険です。

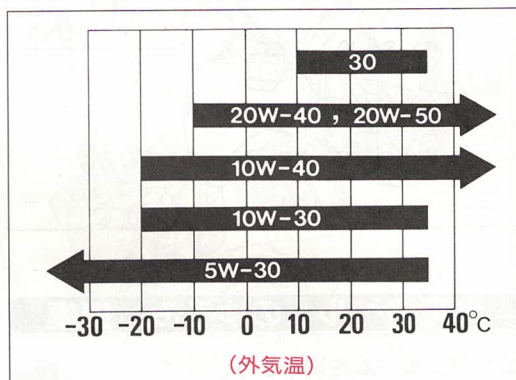
エンジンオイルの補給

トランクを開け、キャップを回して外し、油量計で確かめながら上限まで補給します。補給後、キャップは確実に締め付けます。補給がすんだらエンジンをかけ、1分間アイドリングした後、エンジンを停止し、3分以上たってから再度、油量計で確かめます。



推奨オイル

ホンダ純正オイル ウルトラU
(4サイクル4輪車用、API SE級)10W-30
ホンダ純正オイル ウルトラGX
(4サイクル4輪車用、API SF級)10W-30
ホンダ純正オイル ウルトラLTD
(4サイクル4輪車用、API SG級)10W-30
またはAPI SE級以上のエンジンオイルで、気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



- 作業は水平な場所で行ってください。
- オイルの量は上限を超えないようにしてください。
- オイルをこぼしたときは、完全にふき取ってください。



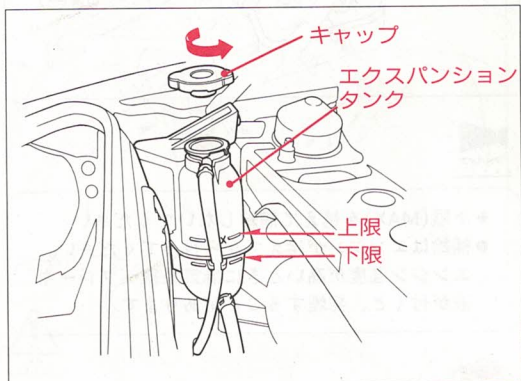
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使わないでください。
- 補給するときは、キャップ部からゴミなどが入らないようにしてください。

冷却水の補給

冷却水は、エキスパンションタンクに補給します。

トランクを開け、エキスパンションタンクのキャップを外し、タンクの上限(MAX)まで補給します。

指定液の濃度を50%にしてお使いください。



指定液：ホンダ純正ウルトララジエーター液

液面は暖機時に上がり、冷機時に下がりますがエンジン温度に関係なく上限(MAX)まで補給します。



● 上限(MAX)を越えて補給しないでください。



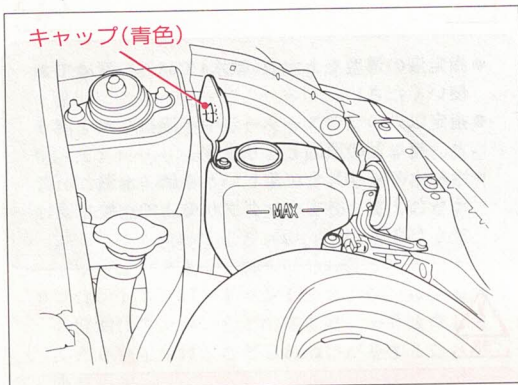
- 指定液の濃度を上水道(軟水)で50%に薄めてお使いください。
- 指定以外のラジエーター液や不適当な水を使うと、錆などの原因となります。
- 冷却水の減り具合が著しいときは、水漏れが考えられます。必ずホンダプリモ店で点検を受けてください。



- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでエキスパンションタンクキャップおよびラジエーターキャップを外さないでください。冷却水には圧力がかかっていますので、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- また、冷機時でもフロントコンパートメント内のラジエーターキャップを開けると、ラジエーター液があふれます。ラジエーターキャップは、冷却水を交換するとき以外は開けないでください。

ウォッシャー液の補給

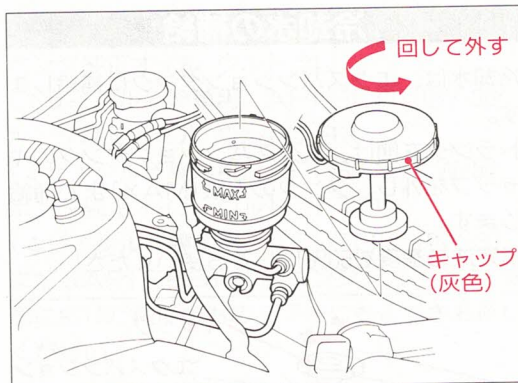
ボンネットを開け、ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れて水でうすめ、ウォッシャータンクの上限(MAX)まで補給します。



- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。
- “ホンダウォッシャー液”には凍結防止剤が入っていますので気温に合わせた濃度でお使いください。
ウォッシャー液の濃度の使いわけおよび注意事項はウォッシャー液の容器に記載してあります。
- 粗悪品や不凍液、石けん水を使うと塗装面などに害をあたえます。

ブレーキ液の補給

- ① ブレーキ液が不足している場合は、リザーバータンクのキャップを回して外し、上限(MAX)までブレーキ液を補給します。
 - ② 補給後はキャップを確実に締め付けます。
- 指定液：ホンダブレーキフルード
DOT 3またはDOT 4



- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。
- 補給はエンジンが冷えてから行ってください。
エンジン温度が高いときに排気系統へブレーキ液が付くと、発煙することがあります。



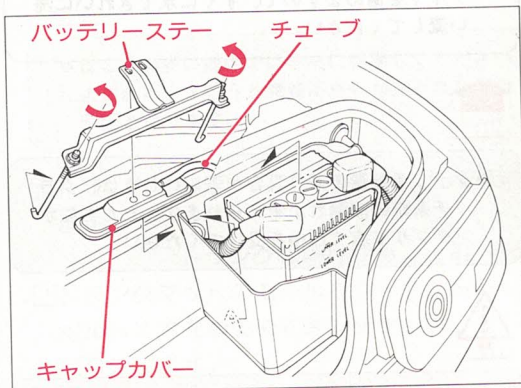
- 補給するときはこぼさないようにしてください。
ブレーキ液をこぼすと塗装面や応急用スペアタイヤを傷めますので、すぐに水できれいに洗い流してください。
- ブレーキ液量の減り具合が著しいときは、ブレーキ系統の液漏れやブレーキパッドの摩耗が考えられます。
ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。



- ブレーキ液は粗悪品を使ったり、他の銘柄を混用しないでください。ブレーキのきき具合やブレーキ系統に悪影響を与え危険です。
- 補給の際はゴミや水がタンクの中に入らないようにしてください。
小さなゴミでも混じるとブレーキがきかなくなるおそれがあります。

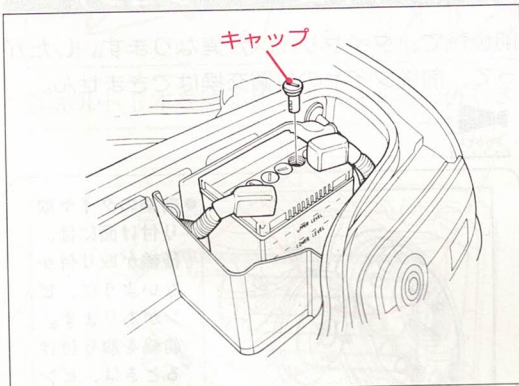
バッテリー液の補給

- ①バッテリー液が不足している場合は、バッテリーステーをゆるめキャップカバーを外します。



- キャップカバーを外すときは、キャップカバーからチューブが外れないように注意してください。

- ②キャップを回して外し、各層とも上限までバッテリー補充液(蒸留水)を補給します。

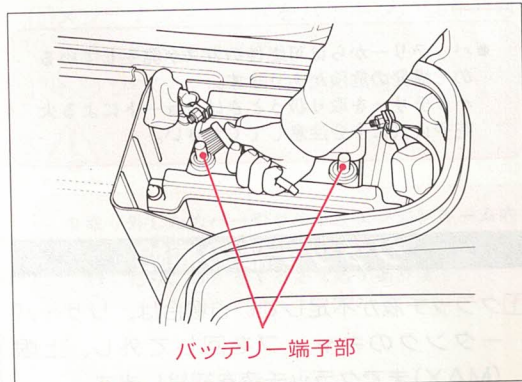


- ③補給後はキャップを確実に締め付けます。
④キャップカバーをバッテリーステーと共に取り付けます。



- バッテリーからは可燃性のガスが発生しているため爆発の危険があります。バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に十分注意してください。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水ですくなくとも5分以上洗浄し、専門医の診察を受けてください。

バッテリー端子部の清掃



- 作業は必ずエンジンを停止させて行ってください。

- ①端子部に汚れや腐食があるときは清掃します。端子に白い粉がついているときは、ぬるま湯で清掃します。



- 清掃のときは、バッテリー槽内に異物が入らないように、注液口のキャップは締めておいてください。

②端子部の腐食が著しい場合は、端子部を取り外して、ワイヤーブラシ、サンドペーパーでみがきます。



- 端子を取り外す場合は、マイナス側の端子から外してください。
取り付ける場合は、プラス側の端子(赤色)から取り付けてください。
- 端子部にゆるみが生じないように確実に締め付けてください。

③清掃、締め付け後は、端子部にグリースを塗布します。

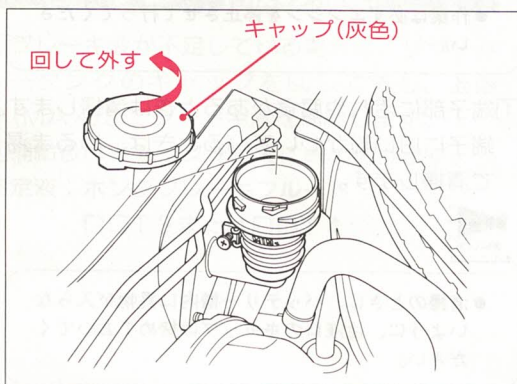


- バッテリーからは可燃性のガスが発生しているため爆発の危険があります。
バッテリーを取り扱うときはショートによる火花や火気に十分注意してください。

クラッチ液の補給

①クラッチ液が不足している場合は、リザーバータンクのキャップを回して外し、上限(MAX)までクラッチ液を補給します。

②補給後はキャップを確実に締め付けます。
指定液：ホンダブレーキフルードDOT 3



- 上限(MAX)を越えて補給しないでください。
- 補給するときはこぼさないようにしてください。
クラッチ液をこぼすと、塗装面や応急用スペアタイヤを傷めますので、すぐに水できれいに洗い流してください。



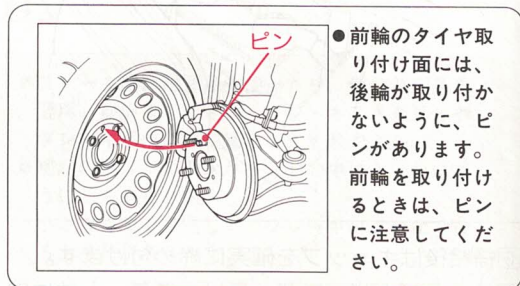
- クラッチ液量の減り具合が著しいときは、クラッチ系統の液漏れが考えられます。ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。



- クラッチ液は粗悪品を使ったり、他の銘柄品を混用しないでください。クラッチのきき具合やクラッチ系統に悪影響を与え危険です。
- 補充の際はゴミや水がタンクの中に入らないようにしてください。小さなゴミでも混じるとクラッチが利かなくなるおそれがあります。

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)

前後輪で、タイヤサイズが異なります。したがって、前後タイヤの位置交換はできません。



- 前輪のタイヤ取り付け面には、後輪が取り付けられないように、ピンがあります。前輪を取り付けるときは、ピンに注意してください。

エアクリナー エレメントの交換

推奨交換時期 40,000kmごと

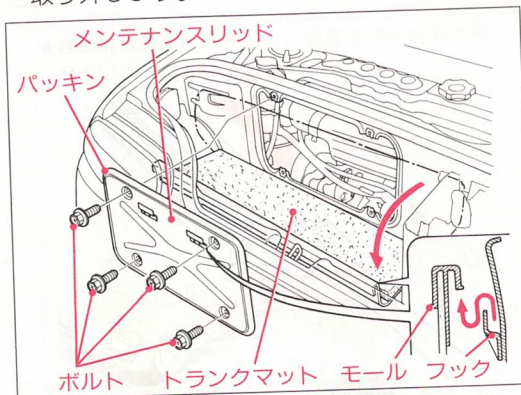


●ほこりの多い地区では早めに交換してください。
よごれたまま使うと燃費不良や加速不良などの
原因となります。

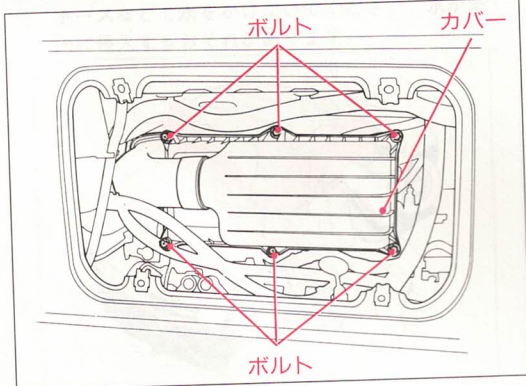
①トランクを開け、ステーを確実にかけ固定し
ます。

トランクの開けかた →37ページ

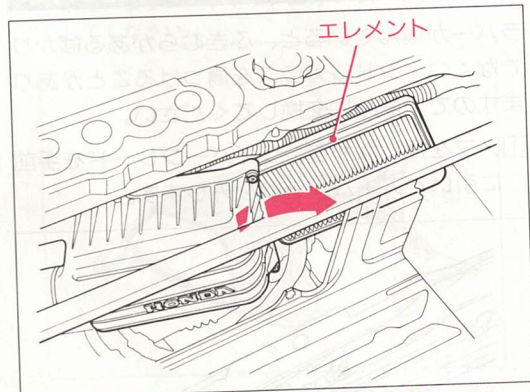
②トランクマットのモールをフックから外し、
ボルト 4本をゆるめてメンテナンススリッドを
取り外します。



③ボルト 6本をゆるめてカバーを取り外します。



④エレメントを、ケースから取り出します。



⑤エレメントを交換し、カバーを元の位置に取
り付け、ボルトで確実に固定します。

⑥メンテナンススリッドをパッキンがはずれない
ように取り付けます。

⑦トランクマットを元に戻します。

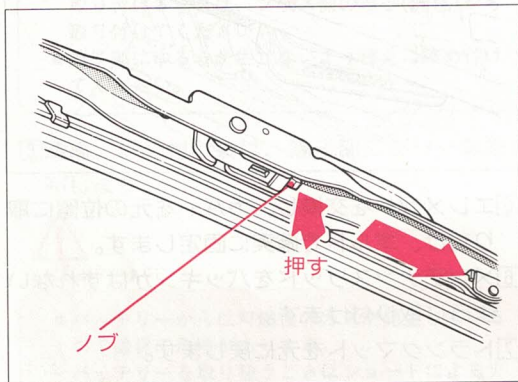


●取り外したカバーやボルトをエンジンルーム内
に置いたままでエンジンをかけると、部品をこ
わしたり、けがをするおそれがあります。

ワイパーブレードラバーの交換

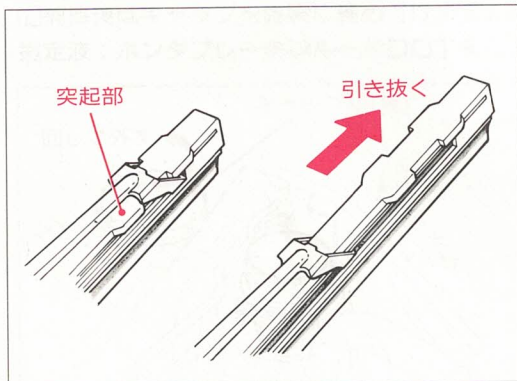
ラバーが傷んでいると、ふきむらがあるばかりでなくウィンドーガラスを傷つけることがありますので、早めに交換してください。

- ①ノブを押しながら、ワイパーブレードを手前に引いてアームから取り外します。

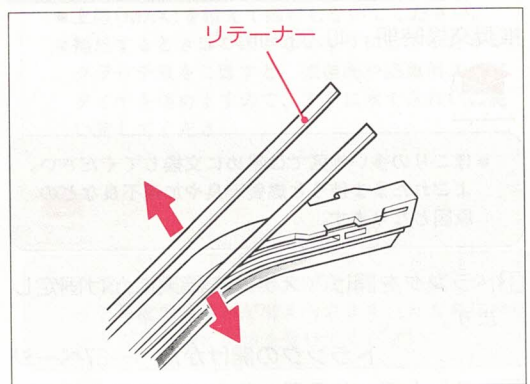


- アームから手を離すときは、ウィンドーガラスを傷つけないように注意してください。

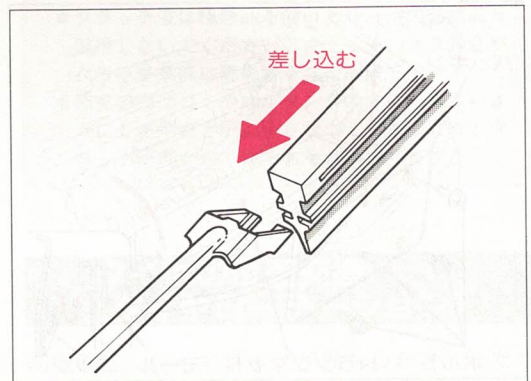
- ②ブレードの突起部が外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜きます。



- ③引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付けます。



- ④突起部と反対側からラバーをブレードに沿って差し込み、突起部を元の位置に入れます。



- ⑤ワイパーブレードをアームに取り付けます。

ソフトトップの手入れ

●ソフトトップを長持ちさせるために

ソフトトップには高品質のソフトトップクロスを使用していますが、手入れの方法を誤りますと、硬化、シミ、光沢ムラなどを生じることがありますので十分注意してください。

- お手入れは、あまり汚れがひどくならないうちに定期的に行ってください。汚れたまま長期放置すると、劣化の原因になります。

●洗車のしかた

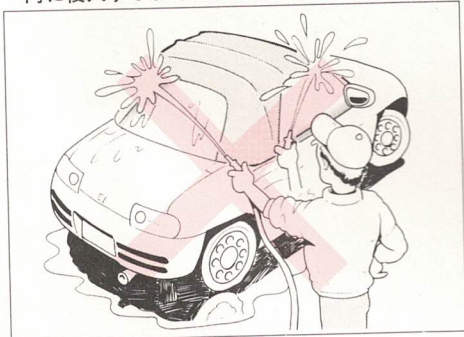
汚れ(泥、砂など)は柔らかな布を使用してきれいな水で洗い落としてください。



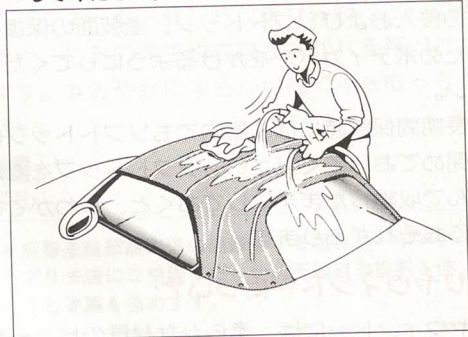
- 自動洗車およびスチーム、高圧洗車は絶対に行わないようにしてください。



- 窓ガラスとソフトトップの合せ目付近に、直接ホースなどで水をかけないでください。水が室内に侵入するおそれがあります。



- 水は、必ずソフトトップ上方からかけるようにしてください。



- 汚れがひどい場合は、中性洗剤を使用し、柔らかな布で強くこすらないように注意しながら、洗い流してください。

●ワックスがけのしかた

月に一回程度、汚れを落とし、良く表面を乾かしてから行ってください。油脂類が付着した場合はそのまま放置せず、ワックスですみやかに拭き取ってください。

ワックスは次のホンダ純正品をお使いください。
“ホンダ純正ソフトトップクリーナーワックス”

- 市販のレザーワックスの中にはソフトトップクロスの光沢ムラを生じさせたりするものもありますので注意してください。
- ボディ用のワックスをソフトトップクロスに付着させた場合は、タオル地の布か、柔らかなブラシを使用して落としてください。
- ガソリン、シンナー、アルコール類、アセトン等の有機薬品によるソフトトップクロスの清掃は絶対に避けてください。ソフトトップクロスの表皮膜が硬化したり、光沢が変化することがあります。

●保管のしかた

- 台風、大雨や屋外に保管しておくときは、水の侵入およびソフトトップ、塗装面の保護のためボディカバーをかけるようにしてください。
- 長期間保管時には、屋内でもソフトトップは閉めておいてください。ソフトトップをたんで収納したままにしておく、しわができるおそれがあります。

●リヤウィンドーについて

リヤウィンドーには、柔らかな材質のビニールを使用しています。

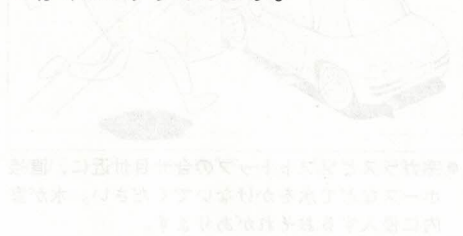
手入れの方法を誤りますと、傷がついたり、ひび割れ、変色、変形を生じることがありますので、十分注意してください。

- 強くこすると傷がつくおそれがありますので、汚れは水だけで洗い流してください。
- リヤウィンドーには、ワックスを付着させないでください。付着させた場合は、すみやかに水で洗い流してください。
- ガソリン、シンナー、アルコール類、アセトン等の有機薬品、ガラスクリーナーによるリヤウィンドーの清掃は、絶対に避けてください。リヤウィンドーがひび割れたり、変色、変形することがあります。

塗装の手入れ

●お車を美しく保つために

- ①走行後は塗装面に付着したほこりを、毛ばたきなどではらい落としましょう。
- ②次の場合は必ず洗車してください。
 - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
 - 海岸地帯を走行したとき。以上のときは車体の下回り、フェンダーの内側を特に念入りに洗ってください。
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついた場合。
化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とし、必要に応じてポリシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。
ポリシングワックスはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。
- ③少なくとも月に一度は洗車してください。
- ④とび石などによる塗装の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- ⑤保管・駐車は風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。



●洗車のしかた

- ①十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかいもので洗います。
- ②よごれがひどい箇所は中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
- ③水が、かわかないうちにふき取ります。



- 自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失なわれたり、劣化を早めることがあります。
- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。

●ワックスがけのしかた

月に1回程度、または水をはじかなくなったときに行ってください。
 車体表面に水の残っていないことを確認し、日陰または車体表面が体温以下になっているときに行います。
 ワックスはホンダ純正ケミカル用品をお使いください。



- みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
 塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品について

樹脂塗装部品(バンパーなど)にガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。すみやかに柔らかい布でふき取ってください。



- 樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、ホンダプリモ店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

内装の手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。

洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。



アドバイス

- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。

●液体芳香剤、レザークリーナーについて

液体芳香剤、レザークリーナーはその成分によっては、樹脂部品、布材の変色、ひび割れをおこすことがあります。

取り扱いには十分ご注意ください。



アドバイス

- 液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。
芳香剤のご使用にあたっては固形タイプのもをおすすめします。
- レザークリーナーを使用したあとは、必ずかわいた布で軽くふき取ってください。
また使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

アルミホイールの取り扱い

アルミホイール装備車

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。

●手入れ



アドバイス

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落してください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つき易いので、砂入り石鹼や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機(ホイール専用ブラシ付のもの)によるホイールの洗浄は、避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

●取り扱い



アドバンス
オーディオ

- アルミホイールは傷つき易いので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを、避けてください。
- バランスウェイトやバルブは、ホンダ純正のアルミホイール専用部品をお使いください。
- アルミホイールにタイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。



- この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずホンダプリモ店にご相談ください。
- ホイールナット及びハブのネジ部には、絶対に油をつけないでください。油がついているとゆるみの原因となります。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- インパクトレンチによる締め付けは避けてください。

エアコンの手入れ

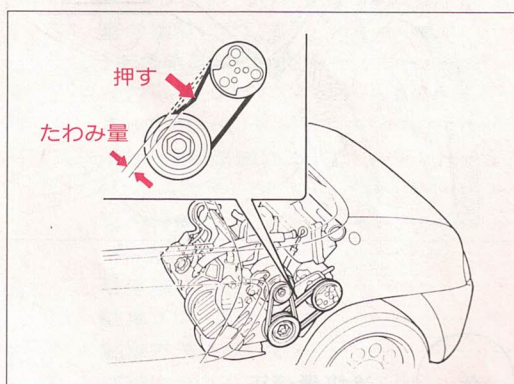
エンジンルームを開けます。

エンジンルームの開けかた →38ページ

●ベルトの点検

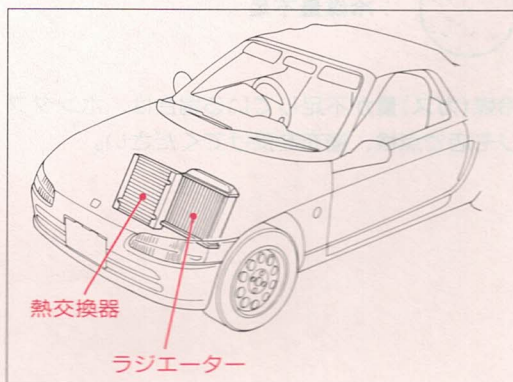
ベルトの中央部を強く押して(約10kgの力)、たわみ量を点検します。

このときベルトに傷がないかも調べます。ベルトのたわみ量は6.5～8mmが適正です。



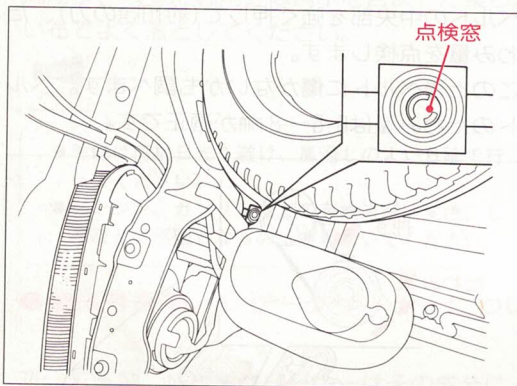
●熱交換器の清掃

洗車の際は水を強くかけて、ラジエーターや熱交換器に付着している泥やゴミ、虫を洗い落とし、通気性をよくします。



●冷媒(ガス)量の点検

冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。エンジン回転を1,500r.p.m.くらいに上げて、2~3分間冷房した後、点検窓で点検します。



○ : 冷媒量適正

ほとんど透明です。
エンジン回転を上げ下げすると
気泡が流れることがあります。



● : 冷媒量不足

冷媒(ガス)量が不足している場合は、ホンダプリモ店で点検、補充を受けてください。

冬期の整備

●バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や充電をしてください。

バッテリー液量の点検 →108ページ

バッテリー液の補給 →113ページ

●エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

●冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

冷却水の補給 →111ページ

●ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度をあげてください。

ウォッシャー液の補給 →112ページ